

Title	素晴らしい一墨手
Sub Title	Souvenirs de ses amis et collègues : Monsieur Mori
Author	林, 栄美子(Hayashi, Emiko)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2004
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. フランス語フランス文学 No.38 (2004. 3) ,p.5- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030184-20040330-0005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

素晴らしい一塁手

林 栄美子

森先生と初めてお会いしたの場所は、なんと草野球のグラウンドでした。

東大駒場のフランス語教師のチームと、慶應の三田と日吉合同のフランス語の教師チームとの対戦だったのですが、一体どこからそんな話が持ち上がったのだから、今はもうさっぱり覚えていないのです。私は、当時大学院に在学していましたが、そのころ仏文研究科の学生で野球好きの仲間が中心になって作った草野球チームがありました。そのことを一部の先生がご存知だったせいでしょうか、慶應チームの助っ人として、大学院生のメンバーも参加させていただいたのです。私も、草野球チームの一員としてスコアラーを務めたのでした。

慶應チームのほうは、まったくの急造チームでしたから、取りあえず心得のある人はそのポジションにつくということにしたところ、森先生が「一塁だったらやれるから」とおっしゃったのです。「手の届くところに投げてくれれば何とか捕れるでしょう」とも。これがいつも謙虚でいらした森先生ならではの、抑えた表現であったことが、試合が始まってすぐに、皆にわかる事になりました。「何とか捕れるでしょう」などというレベルではなかったのです。素人が投げる送球などというものは、十分な距離に届かず変なところでバウンドしたり、高すぎたりと、捕球する側にとっては全くやりきれないようなボールが飛んでくるのがほとんどなのですが、それを上背のある手足の長い森先生が、身体を伸ばし、素晴らしいミット捌きでいかにも楽々と、ポンポンと快い音を響かせて捕ってくださる。おまけに、そのあとの送球も軽やかで、一塁を経由すると内野に気持ちのよいリズムが生まれるのです。

草野球では一塁のところで結構エラーが多くでるものなのですが、その日は一つもなかったと記憶しています。中学のころ野球部で活躍されて

いたというエピソードをお葬式の時に伺って、あの日のお姿が再び鮮やかに思い出されたのでした。

あの試合の数日後、私は経済学部の助手採用試験を受け、その面接の場で森先生に再度お会いすることになるのです。1回目と2回目にお会いした場所の落差の、何と大きかったことか！「あなた、この間の野球に来ていましたよね。」とお声をかけられた時には、一瞬絶句してしまいました。

同じ学部勤めさせていただくことになってからは、一度もご一緒に野球をすることはありませんでしたが、あの日森一塁手の印象は、今も強く残っているのです。驚くべき読書家でいらした先生の、大学での普段のお姿からは、あまり想像のつかない一面でした。もう一度拝見しておきたかったと、今となっては残念に思われます。

恩師に捧ぐ

比留川 彰

森 昌己教授のご冥福をお祈り申し上げます。

森教授はプルーストを専門とされておりましたが、小生も同じくプルーストを研究していたことから、小生の教授昇格の際には昇格論文を審査していただきました。また、小生が経済学部に就任する際にも論文等を審査していただいたと記憶しております。ありがとうございました。